

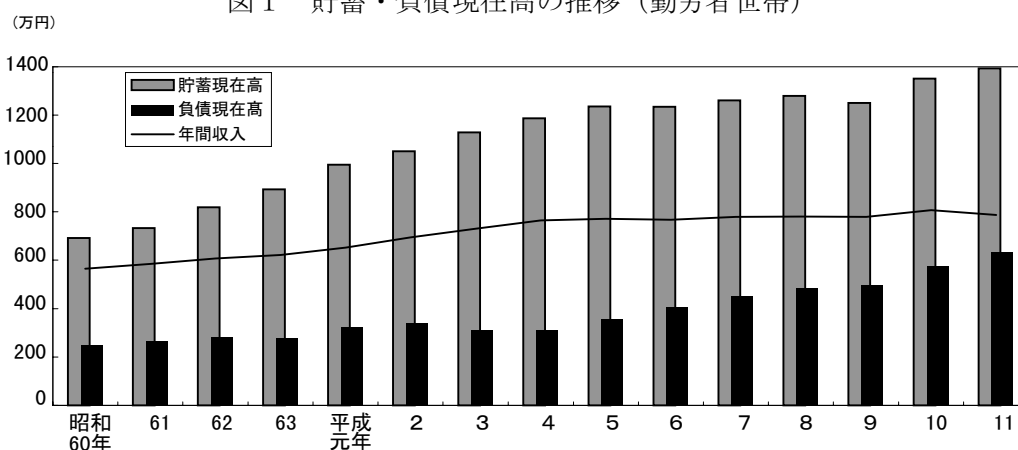
平成 11 年 貯蓄動向調査結果

1 貯蓄の動向

(1) 平成 11 年 12 月末における勤労者世帯の貯蓄現在高は 1 世帯平均 1,393 万円で、前年に比べて (+)3.0%の増加となった。年間収入は 787 万円（前年に比べ(-)2.6%減）で、貯蓄年収比は 177.0%となっている。

また、勤労者世帯と勤労者以外の世帯を合わせた全世帯の貯蓄現在高は 1 世帯平均 1,738 万円で、前年に比べて(+)4.6%の増加となった。年間収入は 755 万円（前年に比べ(-)0.4%減）で、貯蓄年収比は 230.2%となっている。（図 1）

図 1 貯蓄・負債現在高の推移（勤労者世帯）



(2) 勤労者世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値 1,393 円を下回る世帯が全体の 66.8%を占め、貯蓄の低い方に偏った分布となっている。

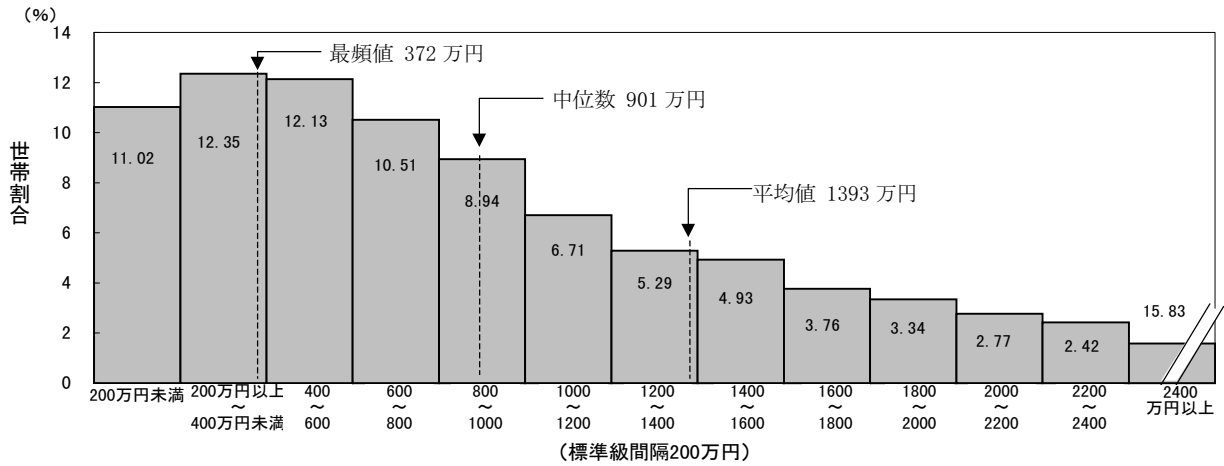
また、貯蓄現在高の中位数は 901 万円、最頻値は 372 万円となっている。（図 2）

(3) 勤労者世帯の 1 世帯平均貯蓄現在高を種類別にみると、定期性預貯金 594 円、生命保険など 455 万円、通貨性預貯金 151 万円、有価証券 136 万円、金融機関外への貯蓄（社内預金など）57 万円などとなっている。

これらの対前年増加率をみると、有価証券が (+)23.9%、通貨性預貯金が (+)12.8%、生命保険などが (+)2.8%とそれぞれ増加しているのに対し、金融機関外が (-)9.1%、定期性預貯金が (-)1.3%とそれぞれ減少した。

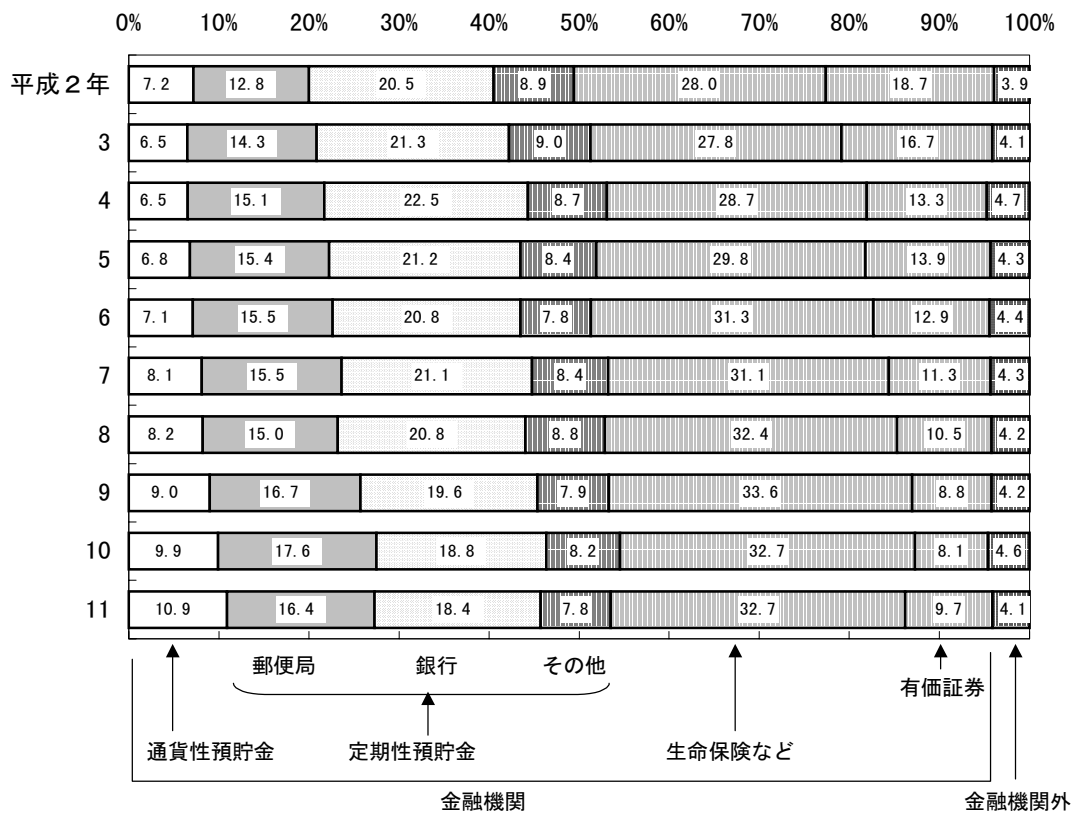
有価証券の内訳をみると、株式は 76 万円で前年に比べ (+)49.5%、株式投資信託は 11 万円で前年に比べ (+)34.1%と大幅な増加となった。

図2 貯蓄現在高階級別世帯分布（勤労者世帯）



(4) 勤労者世帯の貯蓄現在高に占める貯蓄の種類別割合は、定期性預貯金 42.7%と最も高く、次いで生命保険など 32.7%、通貨性預貯金 10.9%、有価証券 9.7%、金融機関外 4.1%となっており、前年に比べて定期性預貯金は 1.8 ポイント低下し、有価証券は 1.6 ポイント上昇した。（図3）

図3 貯蓄の種類別現在高の構成比の推移（勤労者世帯）



注) 金投資口座・金貯蓄口座は平成3年から10年まで、その他と生命保険などの間に表示。

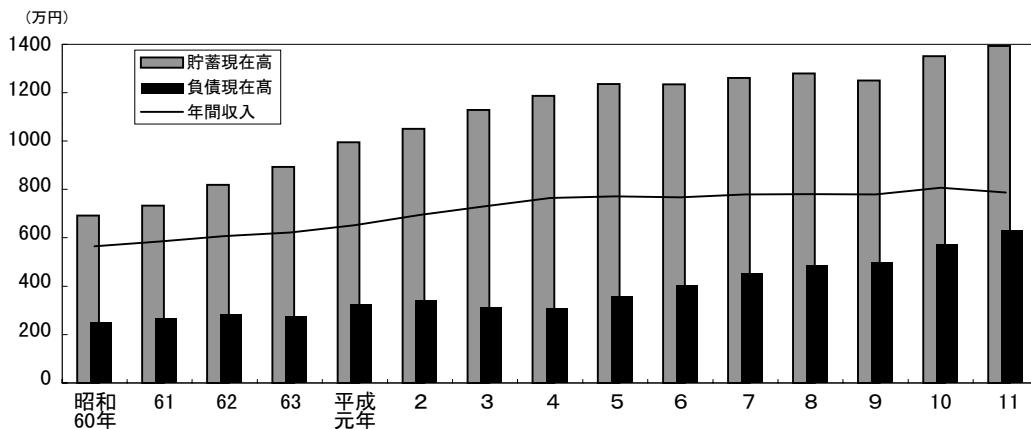
(5) 勤労者世帯について貯蓄の種類別保有率をみると、生命保険などは91.4%、通貨性預貯金は91.2%、定期性預貯金は85.8%、有価証券は24.4%となっている。有価証券の保有率は7年連続して低下した後、10年に横ばいとなり、11年は上昇した。

2 負債の動向

(1) 平成11年12月末における勤労者世帯の負債現在高は1世帯平均633万円で、前年に比べて(+10.2%の増加となった。負債年収比は80.4%となり、前年に比べて9.3ポイント上昇した。

また、全世帯の負債現在高は1世帯平均577万円で、前年に比べて(+8.0%の増加となった。負債年収比は76.5%で、前年に比べて6.0ポイント上昇している。

(再掲) 貯蓄・負債現在高の推移 (勤労者世帯)



(2) 勤労者世帯について1世帯平均負債現在高を借入先別にみると、民間金融機関が303万円(負債現在高の47.9%を占める。)と最も多く、以下、公的金融機関が245万円(同38.6%)、社内貸付、親戚・知人などの金融機関外が85万円(同13.4%)となっている。

これらの対前年増加率をみると、民間金融機関が(+20.5%)、公的金融機関が(+6.2%)増加したのに対して、金融機関外が(-7.7%)と減少している。

(3) 勤労者世帯の負債現在高(633万円)のうち、住宅・土地のための負債は561万円で、負債全体の88.7%を占めており、前年に比べて(+4.7%)の増加となった。

また、勤労者世帯の住宅・土地のための負債保有率は37.8%となっている。

(4) 住宅・土地のための負債保有勤労者世帯

ア 住宅・土地のための負債保有勤労者世帯の負債現在高は1世帯平均1,564万円で、貯蓄と負債の差(貯蓄-負債)をみると、(-)360万円の負債超過となっている。

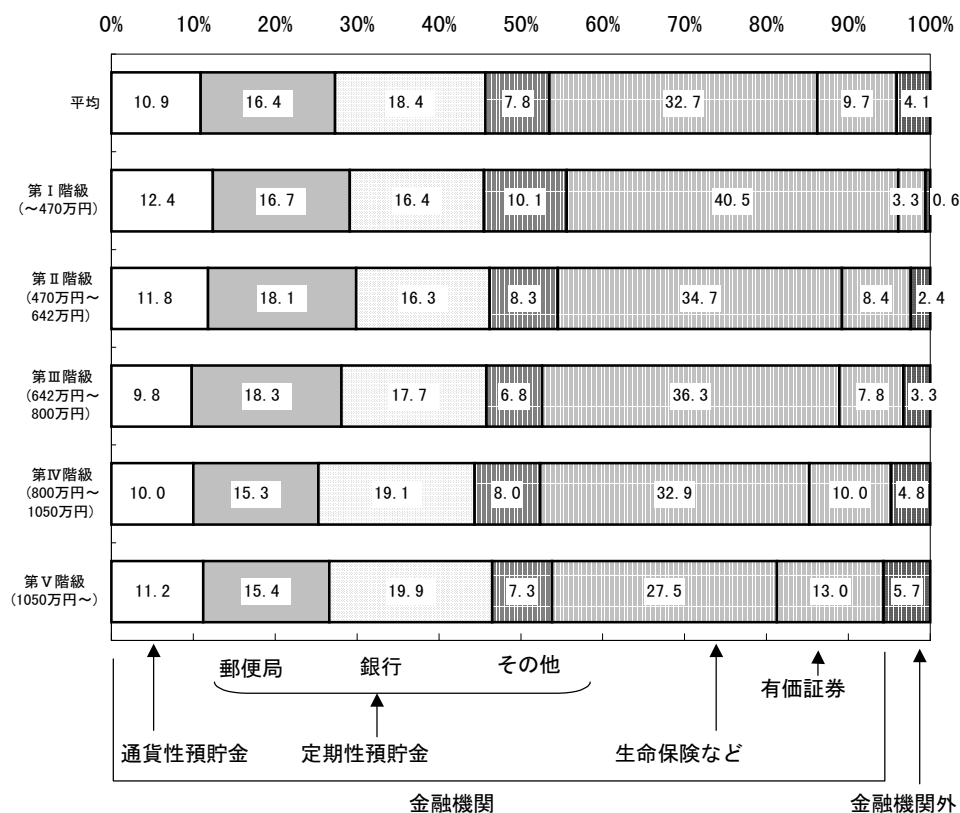
イ 住宅・土地のための負債保有勤労者世帯における住宅・土地のための負債現在高は1世帯平均1,486万円、住宅・土地のための負債に対する返済額は1年間で159万円となっている。

ウ 住宅・土地のための負債保有勤労者世帯について負債現在高を世帯主の年齢階級別にみると、30歳代の世帯が1,900万円と最も多くなっている。

3 世帯属性別の貯蓄・負債の状況

(1) 勤労者世帯の貯蓄現在高について年間収入五分位階級別にみると、所得階級が高くなるに従って多くなっており、第Ⅰ階級に対する第Ⅴ階級の貯蓄現在高の比は約3.6倍となっている。(図4)

図4 年間収入五分位階級，貯蓄の種類別現在高の構成比（勤労者世帯）



(2) 勤労者世帯の貯蓄現在高について世帯主の年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるに従って貯蓄も多くなっており、60歳以上の世帯は2,548万円、30歳未満の世帯の374万円の約6.8倍となっている。

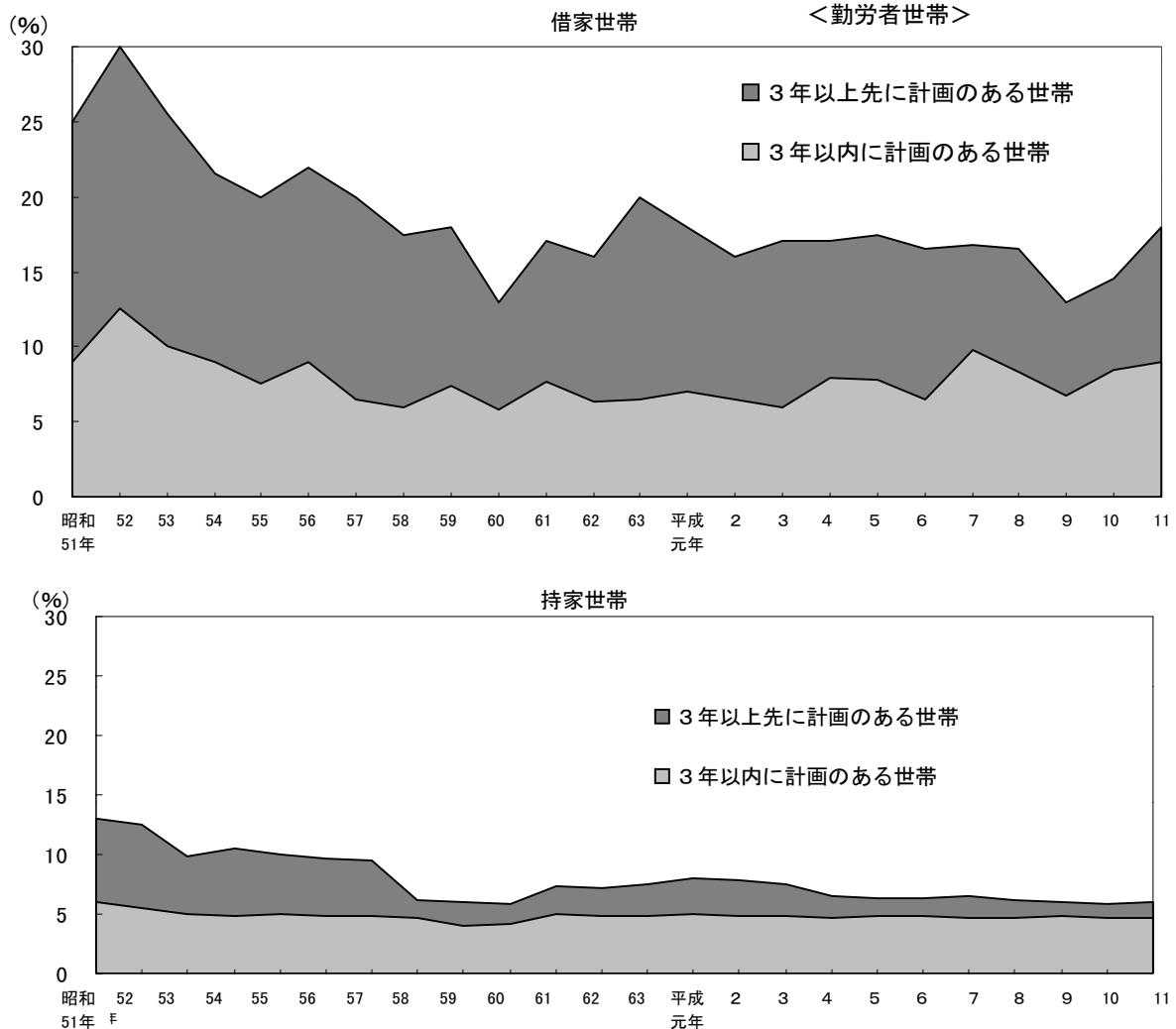
(3) 勤労者世帯の負債現在高について世帯主の年齢階級別にみると、40歳代の世帯が860万円と最も多くなっている。

(4) 勤労者世帯のうち、共働き世帯（配偶者が有業者）の1世帯平均の貯蓄現在高は1,303万円、勤労者世帯の平均（1,393万円）に比べると90万円少なくなっている。負債現在高は765万円、勤労者世帯の平均（633万円）に比べると132万円多くなっている。

4 住宅・土地の取得計画と貯蓄

勤労者世帯のうち借家世帯について、住宅・土地の取得計画の有無別世帯割合をみると、「3年以内に計画のある世帯」の割合は9.0%、「3年以上先に計画のある世帯」の割合は10.1%となっており、いずれも前年に比べて上昇している。（図5）

図5 住宅の所有関係別住宅・土地の取得計画のある世帯割合の推移



5 外貨預金・外債の保有状況

勤労者世帯の外貨預金・外債の保有率は3.8%，1世帯平均外貨預金・外債の現在高は8万円で，貯蓄現在高の0.6%を占めている。

年間収入五分位階級別にみると，外貨預金・外債の保有率は所得階級が高くなるに従って上昇し，第V階級では8.1%となっている。